

## 令和4年度秋田県総合政策審議会第1回未来創造・地域社会部会（議事録要旨）

1 日時 令和4年5月24日（火）15:20～17:00

2 場所 正庁

3 出席者（敬称略）

### 【未来創造・地域社会部会委員】

加藤 未希（合同会社CHERISH 代表社員）

鈴木 了（まちづくり団体HAPPOTURN メンバー）

能登 祐子（能代市自治会連合協議会 会長）

原田美菜子（認定特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム 副理事長）

### 【県】

水澤 里利（あきた未来創造部次長）

橋本 秀樹（あきた未来創造部次長）

笠井 潤（あきた未来創造部参事（兼）あきた未来戦略課長）

真鍋 弘毅（あきた未来創造部移住・定住促進課長）

六澤恵理子（あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課長）

小原 友明（あきた未来創造部地域づくり推進課長）

鈴木 雄輝（企画振興部市町村課長）

小熊 新也（企画振興部デジタル政策推進課長）

石川 亨（生活環境部環境管理課長）

田口 好信（生活環境部温暖化対策課長）

高橋 正嘉（生活環境部参事（兼）環境整備課長）

鈴木 護（建設部都市計画課長）

4 あいさつ（水澤あきた未来創造部次長）

- ・ 当部会は、新秋田元気創造プランの戦略4、未来創造・地域社会戦略について、委員の皆様からの専門的な立場から御意見をいただく場である。
- ・ 未来創造・地域社会戦略は、県政の最重要課題である人口減少問題に対して、自然減や社会減の抑制を目指して取り組むほか、人口減少下にあっても、県民誰もが豊かに楽しく暮らせる持続可能な社会づくりを目指すものである。
- ・ 本県の人口の動態については、昨年度公表された令和2年度国勢調査によると、減少率が平成12年調査以降、5回連続で全国最大であり、依然として大変厳しい状況が続いている。

- ・ こうした状況の中、県では昨年度、本県の人口の将来展望をまとめた秋田県人口ビジョンを改訂し、2065年の約51万人を、本県の目指すべき将来人口としたが、これは、現在のペースで人口減少が進んだ場合に想定される2065年の人口に比べ、約14万6千人もの人口減少の抑制により、ようやく達成できるものであり、県全体で施策を総動員し、積極果敢に取り組んでいく必要があるという認識である。
- ・ こうしたことを踏まえ、未来創造・地域社会戦略では、若者の県内定着や回帰のほか、移住による社会減の抑制、とりわけ若年女性の県内定着・回帰が、今後の少子化克服に大きな影響を及ぼすことから、重点的に取り組んでいくこととしている。
- ・ また、人口減少下であっても、多様性を認め合い、お互いの個性を尊重することで、安心して生活できる地域づくりや、カーボンニュートラル、デジタル・ガバメントなど、時代の大きな流れに対応した社会づくりも、これからの秋田にとって欠かせない取組と考えており、未来創造・地域社会戦略に盛り込んでいる。
- ・ 委員の皆様には、新秋田元気創造プランの着実な推進や実現のため、こうした取組をより効果的に進めるための方策や、来年度の事業のあり方などについて、それぞれの活動を通じて日頃感じている、いわゆる現場目線での御意見や、委員としての客観的な立場からの御助言などをいただければと考えている。
- ・ 限られた期間ではあるが、御知見と御経験に基づいた忌憚のない御意見をいただければと考えているので、ぜひよろしく願います。

## 5 委員の紹介

## 6 事務局紹介

## 7 部会長の選出及び部会長代理の指名

- ・ 委員の互選により、竹下香織委員が部会長に選出された。
- ・ 竹下部会長により、能登祐子委員が部会長代理に指名された。

## 8 議事

### (1) 今年度の未来創造・地域社会部会の進め方について

#### □笠井あきた未来戦略課長

部会のスケジュール等について、部会資料－1により説明

#### ●能登部会長代理

- ・ ただいまの説明について、質問、意見はあるか。

(なし)

## (2) 「新秋田元気創造プラン」戦略4の取組について

### □笠井あきた未来戦略課長

部会資料－2及び3について説明

### □真鍋移住・定住促進課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4目指す姿1の主要な事業について、部会資料－2により説明

#### ●能登部会長代理

- ・ 働き方が大きく変わってきており時代の違いを感じるが、なかなかデジタル化について行けない私は大変である。鈴木委員や加藤委員は、難なく時代に対応できると思うが、我々の世代が一番問題となっていると感じている。
- ・ 今の県の説明について御意見をいただきたい。

#### ●鈴木委員

- ・ 私自身、今の説明にあったような移住の取組が秋田県にあったから、千葉から戻ってくることができた。そういった体験を元に、良かったところや、逆に苦労したところなどを、この部会でお話させていただきたい。
- ・ 現在は、コテージを運営しているため、ワーケーションやリモートワークに関して、常に情報収集しているが、非常にライバルが多く、ちょっとしたことをやれば勝てる市場ではなくなっている。やるなら本気でやらなければならないし、それにお金をかけるのであれば、思い切って違う方向に進むという判断も必要になるのではないかと思っている。

#### ●加藤委員

- ・ 私は、茨島のスポーツクラブの一室で、子育て中の母親達がゆっくりできる親子カフェの運営や、様々なレッスン・イベント等を開催しているが、参加者には転勤族の方もいれば、秋田に拠点を置くという方もいらっしゃるなので、そのような方々の声を伝えていきたい。
- ・ また、自分自身が起業して、子育て支援を行っている立場から、様々なこととお話しさせていただきたい。

#### ●能登部会長代理

- ・ 加藤委員は、学童保育の活動も始めたとのことである。これは事業の拡大であって、素晴らしいことである。こうした活動が定着してくると、子育てのしやすい社会になって

いくと思うので、活躍していただきたい。

- ・ 鈴木委員は、以前からの知り合いであるが、こうした若者が故郷に帰ってきて活動されているのを頼もしく拝見している。
- ・ 先程の鈴木委員のお話で、ワーケーション等が戦国時代になっているとのことであったが、どのようなものか教えていただきたい。

#### ●鈴木委員

- ・ ワケーションとは、ワークとバケーションを掛け合わせたもので、旅行先で仕事をしながらバケーションを楽しむことである。ワーケーションは聞き心地が良い言葉であるため、できそうと思いがちであるが、圧倒的にバケーションの部分が強くなければ、そもそも人は行かないということを肝に銘じる必要がある。仕事をしたいから出掛けるわけではなく、遊びたいから出掛けるのであって、そこで仕事ができればラッキーという感覚である。
- ・ 観光とクロスする分野であり、バケーションの部分で沖縄、北海道、海外等に勝てるほどに強くならなければならないが、旅行先に秋田が選ばれなければならないが、現状はなかなか難しいと思われる。
- ・ ワケーションは乱立しており、既に後発組になっていると思われるので、そこで戦うよりは、県外の人にも秋田は教育が強いというイメージが少しずつついていることから、勝ち目がありそうな秋田型教育留学推進事業に予算を割いた方が良いのではないかと思う。
- ・ 教育留学は就学後の事業だと思うが、秋田はグラウンドの広さや散歩で行く公園の豊かさなど、保育の環境も豊かであるため、保育から留学のような形で、バケーションしながら保育園に子どもを預けることができるようになれば、ただのワーケーションよりも強みを生かせるのではないかと思っている。

#### ●能登部会長代理

- ・ 移住や定住をするためには生活をしていかなければならないので、そこをどのように開拓していけるかが重要だと思う。
- ・ 続いて、目指す姿2及び3について次世代・女性活躍支援課から説明をお願いします。

#### □六澤次世代・女性活躍支援課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4 目指す姿2及び3の主要な事業について、部会資料-2及び3により説明

#### ●能登部会長代理

- ・ 私が所属している能代市の自治会連合協議会には271の自治会があるが、女性の自治

会長は私のほかに一人しかいない。こうした女性の枠をもっと広く、多くしたいと思っているが、女性自身の意識改革が進まない現状があると思っている。

- ・ 県としても、地域リーダーを増やすなど、いろいろ取組をやられていて、F・F推進員の皆様を含め、女性たちが本当にかんがっているのだから、こうした取組を県民に理解していただくことが重要だと思っている。
- ・ 若い人は、家庭での家事の分担など、意識が全然違うのではないかと思うが、どうすれば意識改革できるか伺いたい。

#### ●加藤委員

- ・ いろいろな立場の女性がいると思うが、共働きで子育て中の夫婦の場合は、夫が積極的に家庭のことに協力できるかが、女性の働き方に大きく影響すると日々感じている。
- ・ 先程紹介していただいたとおり、私どもCHERISHでは学童保育を始めたが、それはスタッフが子育てしながら働けるようにするためである。子育てをしていると、早番や遅番は難しいので、自社の保育園に子どもを預けて、安心して働けるようにしたいと思っており、学童保育を始めたことで、小学生が一人で留守番しなくてもよくなった。
- ・ また、授乳の時間になったら仕事を抜けて授乳することもできるし、子どもの具合が悪くなったらすぐにヘルプに入ってもらって休むなど、協力し合って、いかに働きやすい環境にするかということを中心に考えながら取り組んでいる。
- ・ 女性の働き方はもちろんのこと、帰宅してからの家庭のことを考えれば、夫が協力的であることが大事なことだと感じているので、男性の働き方の改善も重要だと思っている。

#### ●鈴木委員

- ・ 私も男の子二人の子育てをしている。かつて、妻がパート勤務だったときは、5時終業と決まっていたので、とても子育てしやすかったが、正職員になり、早番や遅番が始まると、それに合わせて私の生活も激変した。妻が早番の日は、妻の出勤後に子どもにご飯を食べさせ、保育園に送っているし、逆に遅番の日は、保育園に迎えに行き、ご飯を作っている。
- ・ こうした生活は、私が自営業だからどうにかなっていると感じており、お勤めの方で時間に融通が利かない、始業と終業の時間が決まっている、残業もあるといった方が、どうやって子育てしているのかなと考えると、男性の働き方の改善も必要だと思う。やはり働き方に柔軟性がある方が子育てはしやすいのではないかな。
- ・ そもそも私が長男の誕生をきっかけに、秋田に戻ろうと決めたのは、出張があったり、残業が当たり前の会社に勤めていたために、子育てする想像ができず、妻も残業がとて多かったので、関東での子育てに不安があったからである。
- ・ なんとなく秋田でなら子育てできそうだなというイメージがあり、秋田に戻ることを

考え始め、東京で開催された移住相談会などに参加したが、そこで秋田を引っ張ってくれている方が、秋田暮らしのリアルなことや、私が知らなかったキラキラしている面を語ってくれたのを聞いて、不安を少しずつ解消することができた。

- このように、移住と子育てはとてもリンクしており、考えるきっかけになるタイミングであるが、子育てに関する秋田のイメージはとても良いと思っている。子育てしやすそう、教育がよさそう、頭のいい子になりそう、教養大という大学があるんだといったことをもっと知ってもらえれば、良いイメージはもっと伸びると思っている。
- そこが秋田の強みだと思うので、弱いバケーションを伸ばすより、強い教育を伸ばす方が現実的であり、他県に負けないものになると思う。秋田の強みと弱みをしっかりと把握して、勝てる手段を伸ばしていった方が良いのではないか。

#### ●能登部会長代理

- 全てにおいてリンクされていると感じている。マッチングという言葉になるかもしれない。この部会は地域づくりのための部会だが、地域とは人が住んでいるからこそその地域であるので、全てにおいてマッチングにつながり、改善されて、地域が豊かになればいいと思っている。鈴木委員の奥様は、秋田にいらっしゃってどう思われているか。

#### ●鈴木委員

- どうしても物足りない部分はある。最近新型コロナウイルス感染症の影響で、関東の実家にも帰れなくなったため、なおさらである。特に、コンサートや美術館など、文化への触れ合いが足りていないと感じている。
- 一方で、コロナ禍の期間の秋田の良さもあり、やはり人が少なくて良かったと多々感じている。コロナ禍での生活を関東でできたのかと思うことはある。

#### ●能登部会長代理

- 原田委員がオンラインで入室してくださった。原田委員に御意見を伺いたい。

#### ●原田委員

- かつて秋田を出て、東京や名古屋にいたこともあったが、やはり暮らすなら秋田だと思い、30歳の頃に帰ってきた。秋田に帰ってきて思ったのは、今のような緑がきれいな季節に癒やされたり、海も山も近いので、自然を求めるときにすぐ身近にあるのは素晴らしいことだということである。
- 帰ってきた当時は強くそのように思っていたが、それから20年近く経ち、そういった秋田の良さが当たり前になってきていると最近感じているので、秋田の良いイメージを転入者から聞き取ることが重要だと思っている。また、その秋田の良さを改めて地元の人を知り、自慢や誇りにしていくことが、秋田で生きていく楽しさにつながるのだ

はないか。

- ・ ワークーションについては、県民が秋田の中でも環境や景色の良い所に泊まって、地元の中で旅行気分を味わうことができれば、県外からたくさんの人が来なくても、経済的に良くなったり、秋田の良さを再確認する機会が増えるのではないか。

●能登部会長代理

- ・ 今の話は交流人口や関係人口の拡大のためにも大切なことだと思う。
- ・ 次に、目指す姿4に進みたいと思うので、説明をお願いします。

□笠井あきた未来戦略課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4 目指す姿4の主要な事業について、部会資料ー2及び3により説明

●能登部会長代理

- ・ 多様性はとても幅広く、充実させるのは非常に難しいことだと思う。原田委員はいかがか。

●原田委員

- ・ 本当に難しいことだと思う。世代や、住んでいる地域など、問題が多岐にわたるので、一点に集中するのは難しいかもしれないが、やはり子どもへの教育が重要ではないか。小学校では道徳という教科があり、町の人との関わり方や、大人との関わり方などを考える時間があったが、そのように子どもの心を育むところからスタートすれば良いのではないか。
- ・ 大人も日々の生活に追われていると、優しさを忘れがちになるが、性別、世代、障害など、思いやりを持たなければならないポイントがそれぞれにあると思うので、専門家の意見をもとに、各分野で一般の人々に気付いてほしいポイントを挙げ、それを知ってもらう機会をたくさん作っていただきたい。「こういうことで困っている。」「見過ごしてしまっているけれども、私たちが助けられることがたくさんあるんだ。」ということを知り、知る機会を与えていただけると、より多くのことに配慮した生活ができるのではないかと思う。

●能登部会長代理

- ・ やはり道徳、教育の分野が大事である。小学校の教育の中で、皆さんに理解していただくのはとても大事なことなので、副読本を配付するなどにより、教育を進めていただきたい。
- ・ 多様性への理解は、本当に時間がかかることだと思うので、やめずに持続していくこと

が非常に重要なことだと思っている。鈴木委員はいかがか。

●鈴木委員

- ・ まず質問をさせていただきたい。資料の成果指標に、差別を感じた人の割合とあるが、この差別にはどのような内容が含まれているのか。

□笠井あきた未来戦略課長

- ・ 性別、障害、年齢など様々な回答があった。

●鈴木委員

- ・ これは全国と比べてどうかということは分かるのか。

□笠井あきた未来戦略課長

- ・ 県民意識調査による結果であるため、全国と比較することはできない。

●鈴木委員

- ・ 差別は知らず知らずのうちにしてしまうことがあるので、とても発言が難しい。人口減少の中では、異なる人種の方や障害のある方など、様々な方と触れ合う機会が減ってしまうのではないかと思っている。人口が多い関東では、そのような方と触れ合ったり、触れ合わざるを得ない機会が多くあると思うが、秋田では機会の損失がどんどん進んでいくと思うので、そうした機会を確保する必要があるのではないか。
- ・ 部会資料の別の項目に『男は仕事、女は家庭』という考え方に反対する人の割合」という指標があるが、秋田に来て、子どもの保育園の運動会の打ち上げに参加したときに、男性だけが集まって酒を飲み、女性は子どもを見守りながら、酒を飲まずにお弁当を食べている状況を見て、ものすごい衝撃を受けた。私が住んでいる地域が特別なのもかもしれないが、同じ会場にもかかわらず、男女ではっきりと分かれるのが代々伝わる伝統のようになっており、これが秋田なのかと思ったときに、衝撃的であった。
- ・ 関東で生活していた時には、そのように感じる事がなかったので、秋田は男女ではっきりと分かれるという意識が強い県民性なのではないかと感じている。

●能登部会長代理

- ・ それはとても良く分かる。自治会でも同じである。懇親会があると、男性はお酒を飲み、女性は準備をしてお酌をするというように分かれるが、ほとんどがそのような状況なのではないかと思っている。
- ・ やはり意識改革が必要だと思うので、若い人たちにはワークショップなどによる交流の時間や、みんなで学ぶための機会をつくることができれば良いのではないか。



### ●加藤委員

- ・ 子育て支援の観点から多様性について話したい。子育ての悩みにも様々な悩みがあり、例えば双子や三つ子といった多胎児に関するもの、子どもの発達に関するもの、アレルギーに関するものなど、多くのパターンがある。
- ・ 私どもCHERISHでは、子育てを楽しんでほしい、リフレッシュしてほしいということをコンセプトに、様々なイベントやレッスンを開催しているが、そういった場所に来ることができない親も実はたくさんいる。
- ・ 例えば、子どもにアレルギーがある場合、親が気付かないうちに子どもが食べ物を口にしてしまうこともあるし、他の子どもがおやつを食べているときに自分の子どもには食べさせてあげられないことで、親が子どもに対して申し訳なく思ってしまうこともある。双子、三つ子の場合、そもそも子どもを連れて外に出ることだけで大変である。
- ・ 子育て中の親にはSOSを出している方がたくさんいるが、親の方から伝えることも、こちらが気付いてあげることもなかなか難しいので、そこは常に課題と感じている。
- ・ 子育てに悩みがある場合、ひとりで抱えて孤独を感じてしまうが、同じ立場の人たちと交流し、共感することで救われることがある。そのため、子育て支援サークルの存在が重要だと感じているが、特定の悩みに関するサークルでは、どうしても少人数になってしまい、経費の面等で運営が難しくなっている。子育て中の親にとって必要な場所であっても、運営が大変であれば充実した支援ができなくなってしまうので、そうした様々な悩みに対応するサークルを行政がサポートできれば、より多様性に満ちた優しい社会になるのではないかな。

### ●能登部会長代理

- ・ 悩みを共有できる仲間の存在は重要なので、そのような居場所づくりのために、まずは行政に伴走していただき、その後住民が参加するという形を作っていただければ良いのではないかな。
- ・ 続いて、目指す姿5に進みたいと思うので、説明をお願いします。

### □田口温暖化対策課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4 目指す姿5の主要な事業について、部会資料ー2及び3により説明

### ●能登部会長代理

- ・ 私は今、高校生と一緒にアースデイ能代というイベントを開催する準備を進めているが、高校生はSDGsに関する教育が進んでいて、大人の方が全くダメだということがわかった。洋服をリサイクルするための洋服ポストや、食品を必要としている人に届け

るフードドライブなど、高校生の方が知識が豊富で、レベルが非常に高いので、教育がとても大事だということを実感している。

- ・ アースデイ能代では、風の松原でごみ拾いをしながらランニングをしたり、洋服ポスト、フードドライブ、ペットボトルのキャップ集めなど、いろいろな取組を行うので、皆さんにも参加していただきたい。
- ・ SDGs というと難しく聞こえるが、自分の身近でできることをやっていくということが重要であるので、大人も子どもも、身近なことでいろいろな活動ができればいいと思っている。原田委員は、環境問題に取り組んでいる方なので、県の説明をお聞きになつての御意見を伺いたい。

#### ●原田委員

- ・ 私ども環境あきた県民フォーラムでは、団体の活動の一環として、先程の説明にあった「あきたエコ&リサイクルフェスティバル」の開催や、環境教育のための専門家「環境の達人」の派遣など、県の事業に協力させていただいている。団体の設立から20年近く経ち、継続してきた取組にも意義があると思うが、皆さんのような若い、これからの未来を作ろうという方から、私どもの団体の取組に対して、改善すべき点や、どういった取組をすべきといった御意見をいただきたいと思っている。

#### ●能登部会長代理

- ・ 加藤委員と鈴木委員から一言ずついただきたい。

#### ●加藤委員

- ・ 脱炭素化の取組ができていない人たちに向けてどのようなアピールをできるかといった部分では、先程の話にあった、ごみ拾いをしながらのランニングのように、脱炭素化の取組にプラスアルファでイベントやキャンプ等を組み合わせるのが良いのではないか。私の周りでは、子どもを連れながらキャンプに行く方が多いが、例えば、キャンプ場でイベントを開催しつつ、ごみ拾いや勉強会を行うなど、興味がわくことをプラスアルファして入口にすれば、入りやすいのではないか。

#### ●鈴木委員

- ・ 私は二級建築士として建築の仕事もしているが、建築業界はごみをたくさん出す業界なので、建築士の意識向上や正しい知識の習得で、脱炭素化に貢献できるのではないかと考えている。住宅の断熱性能は向上しているが、この寒い秋田にあっても、知識が10年前、20年前で止まっている建築士もおり、また、高齢化により新しい知識を習得する余裕がない建築士もいると感じるので、建築士の教育に取り組むのも良いのではないかと思う。

- ・ また、私はマイボトルを活用しているが、マイバッグも含めて、個人レベルの活動が脱炭素化にどの程度効果があるのかは疑問に思いながら取り組んでいるところもある。小さいことをコツコツと取り組むのが良いという雰囲気があるが、そもそも、個人レベルとは比較にならないほどたくさんのごみを出す産業があるので、個人レベルの活動と、産業による活動とはバランス良く進めるべきではないか。個人レベルでゴミ袋を1枚、2枚節約したところで、もっと簡単に毎日ごみを出している産業があると思うと、やる気がなくなってしまうといった面もある。
- ・ 秋田県では全体のバランスを見て、ごみを多く出す業界にも強い方針を示していただきたい。企業が頑張っているのであれば、個人レベルの活動も意味があると思えるので、そうした順番で取り組むべきではないかと思う。

●能登部会長代理

- ・ 皆さんから様々な御意見をいただいて、まずアクションを起こしてみることなのだと思います。自分ができることをやってみるといところから、みんなが意識を変えていったら良いのではないかと感じている。
- ・ 最後になるが、目指す姿6に入りたい。説明をお願いします。

□小熊デジタル政策推進課長

「新秋田元気創造プラン」戦略4 目指す姿6の主要な事業について、部会資料ー2及び3により説明

●能登部会長代理

- ・ オープンデータ化といったことが出てきたが、皆さんいかがか。

●鈴木委員

- ・ 今はどのようなデータが見られるようになっているのか。

□小熊デジタル政策推進課長

- ・ 今は統計データが多く、例えば、農林水産業のセンサデータ、商業統計調査といった統計調査物が多い。また、環境の関係では津波浸水想定データなどがあり、統計にかかわらず、数値化されたものを美の国秋田ネットで情報公開している。

●能登部会長代理

- ・ 原田委員、いかがか。

●原田委員

- ・ 仕事で風力発電所の建設、開発業務を行っており、事業を開始する際は、県内・県外かわらず、必要となる許認可やどういった土地であるかを必ず調べるが、進んでいる自治体ではGIS（地理情報システム）を自由に使えるサービスを提供しているので、ぜひ秋田県にも土地利用の詳細なデータをWeb上で取得できるようにしていただきたい。
- ・ 電子申請のサービスはだいぶ普及していると思っているが、窓口の担当者の方の手を煩わせないように、事務的な作業もWeb上からできるようなシステムを充実していただければありがたい。おそらくこれは、県内の事業者だけでなく、秋田県で事業を行おうとしている全国の方にとって有益なことだと思うし、これからの時代、ここは大切なポイントだと思っている。

#### ●能登部会長代理

- ・ Web上で行政を検索したときに、高齢者でも分かりやすく、様々なデータが出てくるような、簡単に取り扱えるWebサイトにしていただければありがたいと思っている。
- ・ 誰もが衛生的に生活できることはとても大切なことであるため、生活排水処理サービスの改善も進めていただきたい。
- ・ これで目指す姿6までのすべてが終了となるが、全体を通して何か御意見はあるか。

#### ●鈴木委員

- ・ 秋田に戻ってきた際、八峰町で地域おこし協力隊を2年と少し、務めさせていただいたが、担当が移住担当であったため、全国で盛んに行われていた移住体験ツアーの企画運営にも携わった。年に3、4回ほど、都市圏から10名程度の方を招待して、2泊3日で八峰町の体験をしていただくといったことを企画していたが、実際に移住してくれる方がいる一方で、この6年の間に、また他の地域に移住したり、戻ってしまう方も出てきており、移住というのは成果が分かりにくいと感じている。
- ・ 私がツアーの企画をして、行政担当者が予算をつけていたが、ツアーの際に実際に動いてくれる民間の方の力が必要だということで、仲間8人でHAPPO TURNという団体を立ち上げた。HAPPO TURNでは、ツアー参加者の歓迎、地域の案内、一緒にきりたんぼ鍋を作る、一緒にご飯を食べる、体験メニューのサポートといったことをやっていたが、私の任期後は、企画担当の私がいなくなったことや、予算がなくなったことにより、活動できていないのが実情である。大変悔しいが、予算がなければ何もできないことを感じたし、私が起業したところで、体験ツアーを稼げる事業にするのは難しい。
- ・ そういった経験を生かしてコテージを立ち上げたのだが、県内外から年間150組、4年間で600組、2,000人超の方が一つのコテージに泊まっていたらと思うと、人数的には小さいが継続することは大事だと感じている。また、それが私の収入になって

いるので、かつて1回の移住体験ツアーで200～300万円かけていたのがどうだったのかと、考えることがある。今後の部会では、そうした経験に基づいた話もできればと思っている。

●能登部会長代理

- ・ そろそろ時間なので、皆さんから一言ずついただいて意見交換を終了としたい。まず原田委員、今回参加していかがか。

●原田委員

- ・ 本日は車の中から失礼した。次回は会場で参加したい。本日は、バリバリ活動されている方の生の声を聞いて、新しいことも多く学べたし、刺激になった。私にできることは何か考えながら参加しているが、今後も2回、3回と続くのでよろしく願います。

●鈴木委員

- ・ 重点戦略ではなく、基本政策の防災にある消防団員についても話したいことがある。私は消防団に入っているが、消防大会のあり方など、すごく思うところがある。秋田に来てから、消防団のことを初めて詳しく知ったので、そういったところも話をさせてもらえたらありがたい。

●加藤委員

- ・ 私自身は子育て支援の立場で発言させていただきたいと思っているが、この部会では、それぞれの分野の方が集まって意見交換ができる場なので、もっと勉強しなければいけないと思うことが多くあるし、皆さんから自分にはない考えを聞いたり、新しい自分の考え方が生まれてきたりして、貴重な場をいただけていると感謝している。今後ともよろしく願いたい。

●能登部会長代理

- ・ ここで意見交換を終了させていただく。最後に事務局から何かあるか。

□事務局

今後の進め方等について説明

●能登部会長代理

- ・ 進行を事務局にお返りする。

□事務局

- ・ 長時間にわたりご審議いただき、感謝申し上げます。
- ・ 以上をもって、令和4年度秋田県総合政策審議会第1回未来創造・地域社会部会を閉会する。

以上